

上野 真 (うえのまこと)

4歳からピアノを始め、鈴木吟子、宮沢明子両氏に師事。16歳で単身渡米し、米国フィラデルフィア・カーティス音楽院に留学し、J.ボレット氏に4年間、G.グラフマン氏に1年間師事。その後オーストリア・ザルツブルク・モーツァルテウムに留学し、4年間H.ライグラフに師事。

メリーランド(1985・ワシントンD.C.)、バーゼンドルファー・エンパイア(1986・ブリュッセル)、ジュネーヴ(1988)、オルレアン20世紀(2002)、リヒテル(2005・モスクワ)等の国際コンクールで入賞。京都市芸術新人賞(2005)、青山バロックザール賞(2005)受賞。

2004年リスト・超絶技巧練習曲全曲とトランスクリプションのデビューCDをリリース。またこの年から、モダン・ピアノに加えて、19世紀から20世紀前半までのフォルテピアノやピアノの名器を使った演奏会を、京都、大阪、東京、札幌、名古屋などで開催している。

2006年にはアルバム「3つのモダン・タイムズ」(ドビュッシー、バルトーク&ストラヴィンスキー)を発表。近年は、ロシア、ラトヴィア、ノルウェー、フランス、オーストリア、メキシコ、トルコなどでソロ・リサイタルや協奏曲の演奏会を行っている。国内では、NHK・FM、BS・Hi-VisionやBS2で、演奏が度々放送されており、ぴあのピアへの出演、のだめカンタービレのサウンドトラック制作にも関わる。

2010年7月に、モダン・ピアノによる「ソナチネ・アルバム第2巻・古典」教則本のCDレコーディング(ヘンレ版・エルンスト・ヘルトリッヒ編)をリリース。2011年3月には「歴史的楽器2台によるベートーヴェン中期2大ソナタ&幻想曲」のアルバムを発表。現在京都市立芸術大学音楽学部准教授。

河野 美砂子 (こうのみさこ)

京都市生まれ。京都市立堀川高校音楽科、京都市立芸術大学卒業。芸大卒業後、井上直幸氏に師事。

1982年~83年、ロスアンゼルスにてJ.ペリー氏に師事。その後渡欧、1983年~84年ウィーン国立音大のE.ウェルバ教授の歌曲伴奏のクラスに通う一方、フライブルクのPアクセンフェルト女史に師事。

1985年帰国後、ソロリサイタルシリーズ(シューベルトとシェーンベルク)を五年間にわたり開催、1995年および1996年には、そのまとめとして二晩にわたる連続リサイタルを、京都、大阪、東京にて開催した。

室内楽の分野では、P.カルミレリ氏(元イ・ムジチ合奏団主席ヴァイオリン奏者)を始めとする内外のソリストとの共演の他、ベートーヴェン・ヴァイオリンソナタ全10曲、同チェロソナタおよび変奏曲全8曲、同ピアノトリオ全曲演奏会「ベートーヴェンとの対話」等をシリーズで企画演奏した。その他、オーケストラとの共演、通奏低音(チェンバロ)等。また、フォルテピアノによる、シューベルトの室内楽演奏会等を開催した。

1988年淡路島国際室内楽コンクール優秀賞。

2006年、ソロリサイタル【モーツァルトに会いたい】を京都芸術センター講堂にて開催、従来とは違った形の音楽会が反響をよび、シリーズ継続が決定。詩人の谷川俊太郎氏の朗読との共演など、2009年まで全6回の演奏会を開催した。

1997年より2002年まで大阪音楽大学大学院(室内楽)非常勤講師、2000年より2004年まで京都大学医療技術短期大学部(芸術学)非常勤講師、95年より現在まで京都市立芸術大学音楽学部(ピアノ)非常勤講師。

また、短歌にも興味を持ち、1992年搭短歌会に入会。1995年第41回角川短歌賞受賞。

2004年第一歌集『無言歌』(砂子屋書房)を刊行。同歌集により第5回現代短歌新人賞受賞。

アトリエワム

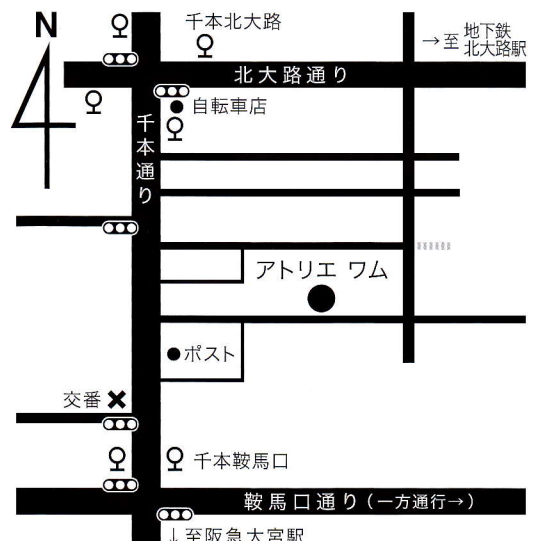
〒603-8227 京都市北区紫野北舟岡町 41

「千本北大路」、または「千本鞍馬口」から徒歩4分。
千本通りから、東に入って4軒目です。

●「千本北大路」、「千本鞍馬口」までの経路

◎ JR 京都駅より、地下鉄「北大路」駅下車(約13分)。
「北大路」駅の、市バス【青のりば】より乗車([北1]と[37]を除く、すべてのバスに乗車OK)。
「千本北大路」まで約10分。
または、地下鉄「北大路」駅⑥番出口より、タクシーで2メートル。

◎ 阪急「大宮」駅下車。
市バス「四条大宮」停留所(北行き・「王将一号店」前)より[6][46][206]にて、「千本鞍馬口」まで約20分。



ウェブサイト「紫野通信」<http://music.geocities.jp/misakn95/>